

生命体工学研究科に入学した皆さんへ

生命体工学研究科長 花本 剛士（電59）



い場所です。

九州工業大学大学院生命体工学研究科に入学された皆さん、おめでとうございます。心よりお喜び申し上げます。生命体工学研究科は学部を持たない独立大学院として2000年に設立され翌年より学生受け入れを始め18年が経過しました。この間に「生命体工学」という名前も次第に浸透してきていると思っています。

皆さんの活動するキャンパスは、若松区の北九州学術研究都市に位置し、全国で唯一、国公私立大学が進出している学研都市です。また北九州産業学術推進機構を核として多くの研究機関も進出しており、皆さんの教育研究環境としては申し分のない場所です。

多くの学生はここでの日々が学生時代の締めくくりの場となり、本研究科から社会に羽ばたくこととなります。特に博士前期課程の2年間は、あつという間に過ぎてしまいますので、しっかりと計画を立てて日々過ごしてください。皆さんは自分で希望して大学院に入学した学生のはずですので、研究能力を身に着けたい、最先端の教育を受けたいと思つていると信じています。

就職活動に必要以上に多くの時間を費やす学生もいますが、就職することはゴールではなく、スタートであり、学生時代に学んだことが、その先の長い人生に多大に影響するということを意識しておくことが重要です。そうすれば、何をする必要がありますか、自ずとわかると思っています。学生時代に「自ら学ぶ」という能力を身に着けることが大切です。このため生命体工学研究科では、学研

都市連携大学院インテリジェントカー・ロボティクスコース及びカーエレクトロニクスコース等、大学院レベルに相応しい様々な教育プログラムを準備・拡張しています。一方、グローバルエンジニアを育成するための海外インターンシップや短期留学制度なども単位化し充実させています。

また、本研究科をはじめ学術研究都市では多数の留学生が学んでいますので、積極的に彼らと交流を持ち国際的な感覚を身につけるチャンスです。日本での常識が世界では通用しないことは多々あります。習慣や宗教の違いに気が付くことも大切です。今日では、どの企業に就職しても共通語として英語でのコミュニケーションは必要となつていきますので、お互いの背景にある文化の違いを理解しておくことは将来必ず役立つことでしょう。

前期課程修了後に後期課程へ進学し研究を深化させることも勧めます。現在の科学技術の発展は目を見張るものがあります。時代の変化にも対応できるよう、後期課程で実力を身につけ、博士の学位を携えて研究者

の道を進むことや、社会に羽ばたく道があることを現時点から意識しておいてください。同時に、前期課程修了後、企業で働きながら一定期間後に社会人学生として再度学び直す道もあり、現に後期課程の定員の約3分の1は社会人学生です。技術者としての学びは一生続きます。

また、学生時代には身体を鍛えておいてください。物事を進めていくには体力勝負になることが多々あります。集中力も体力がないと続きません。体力も知力と同じで短期間で身につくものではありません。各自に合った方法で継続して行つてください。

最後になりましたが、学生時代の大きな目的の一つは、生涯の友を作ることだと思えます。お互いを高めあえる関係を持てる友人ができれば生涯にわたる財産になります。

我々教職員も、皆さんと在籍中だけでなく、永く付き合えることを楽しみにしております。これから一緒に前進していきましょう。